

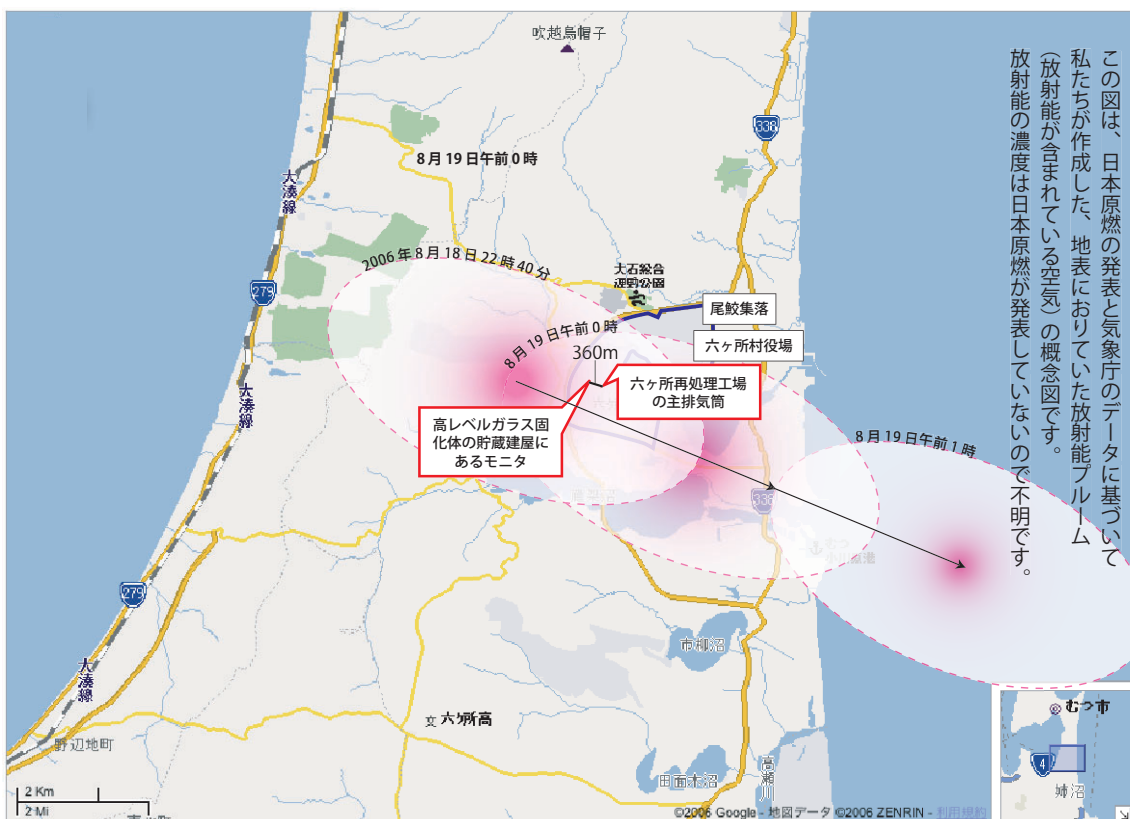
通常六ヶ所再処理工場
から放出される放射能で

えっ！ 住民はもっと被ばくしてしまうの？

「日本原燃の被ばく計算の方法」に、 根本的なまちがいが見つかりました

8月18日、再処理工場の煙突（主排気筒）から大気に出された放射能が、すぐそばの地面に降りてきていたことが、日本原燃により確認されました。

再処理工場から大気に出る放射能は、煙突から出た時点では人体にとっても危険な量です。原燃は県民の被ばくを、1年間に0.022ミリシーベルト以下と計算していますが、その評価方法は、「高い煙突から遠くに流れ、薄まってから徐々に地面に降りてくるから大丈夫」という前提に基づいています。つまり、今回の出来事は、この計算方法があやまりであることを示しています。



アクティブ試験第2ステップ中、使用済み核燃料のせん断を始めた2006年8月18日の23時ごろ、再処理工場の主排気筒からほぼ西約360m離れた地点のモニタ（設置場所：高レベルガラス固化体の貯蔵建屋）で、放射能が検出されました。

出所は、使用済み核燃料をせん断中の再処理工場の主排気筒からとされています。

日本原燃の定めた被ばく線量計算や気象指針では、起こらないはずの出来事です。



市民の疑問 1

150m もの高さから放出される放射能は、容易に近くの地面には降りてこないというのが日本原燃の主張ではなかったのでしょうか？



市民の疑問 3

今後も同様の気象現象が起これば、敷地内労働者、周辺住民が被ばくしつづける危険性が発生しますが、それでもこの誤った計算方法のまま事業を進めるのでしょうか？



市民の疑問 2

日本原燃が定めた気象指針や被ばく線量計算には、こんなに近くに、放射能を含む空気が地上に降りてくる想定はないので、日本原燃のいう「県民の被ばくは0.022 ミリシーベルト以下」だから安全という主張は根本から崩れたのではないのでしょうか？



市民の疑問 4

今回検出された放射能は、そのあとどこに流れたのでしょうか。当時の風向きからすると、六ヶ所村の集落や国道 338 号線にも流れたはずですが、その濃度はどれくらいだったのでしょうか？

今どうなっているの？

- ・9月8日、この問題について市民団体より原燃宛てに質問書が提出されました（下記参照→現在未回答）。
- ・9月19日現在、再処理工場では使用済み核燃料のせん断が8月18日より停止中です。

2006年9月9日『デーリー東北』より

試運転中止など
求め文書提出
原燃に反核燃団体
反核燃団体の「花とハ
ーブの里」(菊川慶子代
表)や「PEACE LA
ND」(山内雅一代表)な
どは8日、六ヶ所村の六
ヶ所原燃PRセンターで
日本原燃に対し、使用済
み核燃料再処理工場で行
っている試運転(アクテ
ィブ試験)を中止し、被ば
く評価を検討し直すよう
求める文書を提出した。
文書は両団体に加え、
核燃から海と大地を守る
隣接農漁業者の会やグリ
ーンピース・ジャパンな
ど、全国で反核燃を訴え
る三十団体による連名。
菊川代表らは、高レベ
ル廃棄物貯蔵管理センタ
ーのガラス固化体貯蔵建
屋に設置されたモニタ
ーが八月十八日夜、通常
の二倍に達する異常値を
示し、再処理工場の主排
気筒から放出された放射
物質が降下したと指摘。
放射性物質の降下や被ば
く評価など四項目の質問
への回答を求めた。

あなたの疑問・不安を下記へお伝えください。

青森県へは 青森県総務部 秘書課

TEL 017-722-2054

六ヶ所村へは 六ヶ所村 役場

TEL 0175-72-2111

県民が被ばくする量

日本原燃のいう「0.022mSv」だから大丈夫は、
今回の事態で崩れています。



発信元: グリーン・アクション [2006年9月19日]

606-8203 京都市左京区田中関田町 22-75-103

telephone 075 701 7223 facsimile 075 702 1952 e-mail amsmith@gol.com www.greenaction-japan.org

